第４３回みんなのタウンミーティング会議報告

1　開催日時　令和８年７月２５日（土）　　午前 10 時 30 分～12 時
2　開催場所　公民館貫井南分館（貫井南センター）
3　参加者　　市長及び市民５名
4　会議次第　　(1)　開会
　　(2)　市長あいさつ　（市政報告）
　　(3)　懇談（フリーテーマ）
　　(4)　閉会
5　懇談内容要旨

	件名	ご意見・ご要望等	市長からの回答等
1	住居表示について	市道が横に入ったところにある１０件くらいの戸建てが並ぶエリアに住んでいますが、すべての家の住所が地番まで全く同じになっており、非常に困っています。市内のあちこちに同じ様な場所があるのか、小金井市の現状を教えてください。どのように改善していただけるのか、改善の検討はあるのか、我慢しなければならないのでしょうか。	法令的に問題がなければ改善できる方策を当然探っていきたいと思いますが、なぜこうなっているのかということを、細かく正確にお答えできませんので、持ち帰らせていただきます。
2	東小金井駅周辺について	東小金井駅周辺も再開発が進み、駅の中に店ができたり大きな建物が建ったりしていますが、ものすごく偏っています。駅前に不動産屋もクリニックも要りません。クリニックはできすぎて、共倒れしています。 東小金井駅は周辺に大学が多く、学生の利用が多いのにも関わらず、若者が使える店が何もありません。喫茶店も軽食を食べるところもありませんし、市民の生活に直結しているような店がほとんどありません。隣駅まで行かなければ洋服も、手土産のようなお菓子も買えませんし、家族連れと若者が多い町なのに、ファミリーレストランがありません。 駅ビルも、オープンしたばかりのときには生活が潤うような商店、総菜屋などができましたが、結局は定着しません。主婦にとって生活が便利になったという店もなく、ビルが建つのに不便なままです。 それはなぜなのかということを、どのように考えていらっしゃるのでしょうか。やはり生活が潤うためには、いろいろな衣食住に分けて便利になり、バランスよく店舗が成り立ってくれないと、そこに住んでいる者は便利さを感じません。若者の意見として息子の話を聞くと、「東小金井は終わっている」と言います。両方同時にということは難しいから順番で再開発をするのはわかりますが、東小金井が武蔵小金井とだいぶ差がついていることについて、若者に「終わっている」という言葉を言わせてしまうということについて、どのようにお考えでしょうか。	新しい店を出そうといったときには、当然そこで商売が成り立つかということを考えて始められていると思いますので、正直に申し上げて何か市としての補助やサポートがない限り、お店を誘導するのは行政としては難しいところがあります。 バランスが取れた店舗がなかなかできないということの背景ですが、マーケットの指標を測る上で重要なものに駅の乗降客数というのがあります。東小金井は武蔵小金井のちょうど半分ですので、人の流れからいっても商業施設の維持という面で、マーケット的に武蔵小金井と比較すると弱くなるのかと思います。 ただ、やはり気になるのは若い世代の声です。若者にそういうことを言わせてしまうのはどうなのかと仰いましたが、非常に残念ですし、そう感じられているのは良い状況ではないと思っています。若い人たちの居場所がないという話は聞いており、それが滞留できる場所がないということだと思いますので、それはまず行政としての大きな課題だと考えています。 小金井市は、転入も転出も２０代、３０代が突出しています。こういう人たちを、ここに住み続けたいと思っていただく、もしくは関係人口という言葉もありますが、地域に愛着を持ってもらうということを強めていかないと、せっかく若い人たちが多い東小金井の良いところを生かせないと思っています。若い人たちにとって、この町が自分たちの町だと思ってもらうための働きかけを、今まで以上に検討していこうという話は、市役所内でしているところです。

3	新庁舎・(仮称) 新福祉会館建設について	庁舎の建設は、再来年度まで執行を延ばしてもコストが上がるだけで、下がる要因はあまりないのではないかと思います。私は長年、民間で役所のインフラ建設に携わってきましたが、ここ２０年ぐらい前からは建設費に民間の資金を活用するようになっています。 小金井市役所も、昨年、規模を縮小してコストを減らそうという一部の意見がありましたが、散々揉めてここまで来たものの規模を縮小しても、それほどコストを減らすことはできないと思いますので、今の状況で進めていくのはやむなしという気もします。 今の場所に限らず、高層化ができる場所で民間活力を活用し、上部を民間に売却することによって市の負担分が大幅に減るのであれば、議会も考え直しても良いということになるのではないかと思います。そういう検討は、いままでされたことがあるのでしょうか。それぞれに立場の違う議員の方と話しても、皆さん申し合わせたように全く乗り気ではありません。行政としては、やはり民間と一緒に庁舎建設をするというのは好ましくないという考え方があるのでしょうか。	民間活力導入の検討については、新庁舎建設の基本計画をつくる際に行った経過はありますが、その活用には至っておりません。 その時は、今の建設予定地で建てるということを前提にしていましたので、中央線に隣接し様々な規制もかかっており、あまり高い建物は建てられないような余力のない場所で、民間活力導入は難しいのではないかということもにあって、合わないという結論を出したように思います。 まずはご意見として受け止めさせていただきます。
		７月１７日の市長のＸで、３回目の入札に向けてサウンディング調査を改めて実施しましたとありましたが、市長として結果をどう読み解いていますか。こういう事態になっていますので、実施設計完了になって契約関係がなくなっていたとしても、「社会的な物価上昇、賃金上昇で上がっているので責任は問わない」という前提の下、設計者に御相談なさったほうが良いと思います。 ただ、最終的な問題は、学校建て替えがめじろ押しになってきていますし、お金払えるのかということです。ある議員の方が、２０４０年、４５年までのシミュレーションをしないと、自治体として再建団体になるのではないかとまで仰っていました。 現設計案でそのまま進めて、支払えるのかということになったときに、これなら大丈夫だというものを同時に提示して、懸念されていることは払拭できると思っているという説明をされるのが良いと思います。 次に、技術的な話になりますが、なぜ「柱頭免震の施行実績経験が少ないことから、工事難易度が上がる要素だと思っている」と記載したのでしょうか。公共工事は本来、どの会社も施工できる状態が良いのですが、免震構造は特定の会社しかできません。なおかつ今回は、福祉会館が完成しないと免震装置がつきませんので、同時着工は良いですが、非常に難しい工事になります。それをわざわざ記載する必要はあったのでしょうか。 また、地下がなくなるとこの柱頭免震がなくなるので、地下について述べた会社があったはずだと思います。基礎免震は A ランクであれば、全ての会社ができますし、基礎免震が一番早くて安いと思います。	サウンディング調査の結果は、大きく２つあると思います。 スケジュールに応じて意欲的に取り組んでいただける事業者があるかどうかという点です。これについては、限定的ではありますが、タイミングも含めて体制が取れる事業者は少なからずあるだろうということがまず一つです。ただ、多数の事業者ができるという感じではないというところです。 もう１点は金額です。目安にする建築の平米単価が、事業者側で一番多かったのが平米当たり１１０万円から１２０万ぐらいの回答だったことは、我々としても重く受け止めなければならないと感じています。 現在の市の方針は、現設計で３回目の入札に向けて調整を進めるということです。 この柱頭免震のコメントのところですが、主な意見として必要だから書いたというだけで、ここに深い意味は内包しておりません。 地下の件についてですが、全ての意見を私が全部原文をチェックして、どれを記載するかしないかというような判断はしておりません。もしそういう意見があったとしたら、主な意見かどうかというのは担当のほうで決めています。
4	フェスティバルコートにあるメタセコイアの健康管理について	駅のヨーカドーの前辺りに３本の大きな木がありますが、あれはメタセコイアかなと思っていますが、そうだとすると、地球上から絶滅した木だと言われていたものが中国で見つかったという「化石の木」と呼ばれているものです。あの３本はとても素晴らしく立っていて、やはり武蔵小金井駅のシンボルだと思っています。	小金井市はもともと、良好な住環境を形成するためには水と緑を大切にしようということで基本計画にもしっかり位置づけて、いろいろ取り組んできた町で、木が多いという感想をいただけたのは、そのように取り組んできた成果です。 武蔵小金井駅南口のフェスティバルコートに立っている大きな３本の木は、仰るとおりメタセコイアという木です。再開発に当たり、その地区にあったある地主さんのお屋

		ところが、この頃は高くしてあるものに割れ目が入ったり、中から草が生えたりしています。 開発の時、そこにあった家の玄関のところに植えてあった木で、切らないことを条件に土地を開けたということを神社やお寺の方が教えてくださいました。それなら大事にしないとと話していますが、それでも、秋になると葉が落ちるので、もう切ってもらいたいという方もいると聞きました。 この頃は、いろいろなところで突然木が倒れたりしていて、太い大きな木でもすぐに切られてしまいます。あのメタセコイアの木も、いつ倒れるか分からないから危険だということで切られてしまうのではないかと心配しています。そうなる前に、樹木医に診てもらったり管理をしてもらえるようお願いします。 それから、あそこには樹名板もないので、木の特徴や地球上からなくなるというようにみんなで守っていきましょう、といったことを置いておけたら良いと思います。	敷に植えてあった木を移植して、シンボルツリーとして残していこうという思いであの場所に植えて育っています。 最近、木が老木化しており、台風や強風によって木が倒れてしまうということが、非常に大きな課題となっています。我々も木を愛でて良い環境で暮らしたいということはありますが、木も老いてしまいますし、大きな枝が落ちて人が被害に遭うことがないように、樹木医に診てもらったり、しっかり木の状態を確認し、場合によっては切らせてもらったりといったことを丁寧におこなう必要があります。 木を大切に育てながらも、しっかりと管理をして、いい状態を保つということに、これからも努めていきたいと思います。
5	CoCo バスの利便性について	CoCo バスが全然便利じゃありません。CoCo バスに乗ったら病院に行けて、駅にも行けて、スーパーにも行けて、一周して元に戻って帰ってきた、自宅に戻れたというような、生活に主要なところを回ってくれるような CoCo バスだったらとても利用価値はありますが、どこからどこまで一方的に行きます、一方的に戻ります、そういった路線が何本もあるだけで、便利に使っている人が少ないため、乗っている人が少なく、料金は値上がりしています。改善の余地はないんでしょうか。	路線をどのように設定できるかということについては、かつて設定されたものを２年前に再編し、現在また若干の再編をしています。 ご不便を感じておられるのは、もしかしたらもともと商店街の通りを通っていた東町循環が、東大通りのほうを通って北口に回るルートに変わったことかと思います。 当然ながら、路線を決めるときには各地域に出向いていき、任意で来ていただく皆さんのお声を聞きながら変更するなどしています。ただ、道路幅によって通れるバスの種類が決まるんですが、年々、道路の管理者である警察の基準も厳しくなっており、ルートにしたくてもできないという事情もあるため、ニーズは確認をしているものの、そのとおりにルート設定したうえで路線を決定するということができていないのが実情です。そういう声が多く出ること自体は、担当のほうにまた伝えておきます。 一方で問題となっているのは、ドライバーの高齢化が進み、ドライバー不足になっているという社会状況です。東町循環と中町循環の２路線を２年後に運行を停止してくれという事業者からの申入れがありました。そもそもバス路線自体がなくなることは絶対に避けなければなりませんので、いろいろと協議を重ね、若干の変更はあるとしても路線はしっかり残すという方向で再整理をしていますが、数少ないドライバーの中でどういうルートにするかということを決めざるを得ないという状況です。 今後は恐らく CoCo バスだけの交通手段では足りなくなると思っており、もう少し自由度の高い利用ができる公共交通をうまく組み合わせていかないと、市民の不便さがどんどん増してしまうのではないかという懸念を持っています。今すぐではないにしても、今後、また別の手段も組み合わせた上で、できるだけ多くの方々が便利になったと思えるような形を、時間かけてつくっていかざるを得ないと考えておりますので、そこは御理解いただきたいと思います。
6	武蔵小金井駅北口の再開発について	武蔵小金井駅前のドン・キホーテの隣にずっと建っていた古いビルが最近解体されましたが、何が建つのでしょうか。	地元の地権者の皆さんが組合をつくって組合施行という形の再開発をしており、低層階は商業施設で上は住戸という大きなビルが、４年後に完成予定だと聞いています。 空間もできますので、ベンチなどの滞留できる空間をつくり、あそこには緑がないですから緑陰もつくるという形で進んでいく予定です。